

第9期北海道総合開発計画（案）の概要

国土交通省北海道局

令和6年2月1日

「他で代替できない北海道の価値」を最大化することで、現下の国の課題解決を先導

北海道の価値を生み出す「生産空間」の定住環境を、構造的課題も踏まえて維持

国の現下の課題

- ・ロシアのウクライナ侵略による食料・エネルギー危機
- ・新型コロナウイルス感染拡大によるインバウンド観光需要の消失
- ・2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策展開

北海道の圧倒的な資源・特性

対「食料安全保障」

食料カロリーベース = 全国の約24%、農業産出額 = 全国の約15%
海面漁業・養殖生産量 = 約25%、産出額 = 全国の約20%

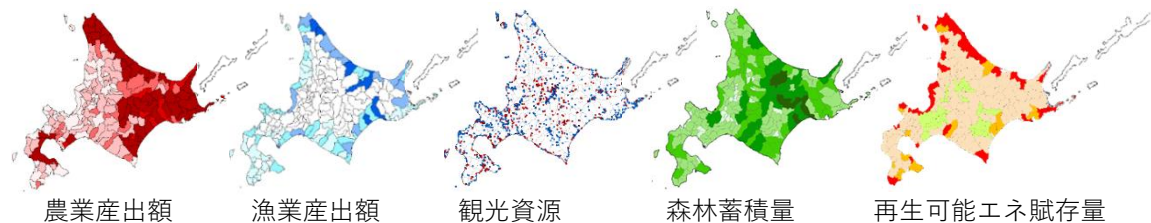
対「観光立国の再興」

都道府県魅力度ランキング = 15年連続全国一
来道外国人旅行者数 164万人増 (感染症拡大前の直近5年)

対「再生可能エネルギーシフト」「エネルギー安全保障」

洋上風力 (全国の約29%)、陸上風力 (〃約51%)
太陽光 (〃約25%)、森林吸収 (森林面積22%)、
ブルーカーボン (海岸線13%)、その他全国1位 (バイオマス、中小水力)

北海道の価値を生み出す「生産空間」の分布



北海道の生産空間の構造的課題



「二重の疎」
+
積雪寒冷の厳しい気候、海溝型地震の切迫

目標1. 我が国の豊かな暮らしを支える北海道 ～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
4. 地域の強みを活かした成長産業の形成
5. 自然共生社会・循環型社会の形成
6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
7. アイヌ文化の振興等

目標2. 北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

第9期北海道総合開発計画(案) 概要

計画策定の意義・計画の目標 北海道開発の基本的意義～北海道の資源・特性を活かして、その時々々の国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図ること

第9期北海道総合開発計画の意義

- ・我が国を取り巻く状況の変化に対し、北海道は、その資源・特性を活かして、我が国の経済社会づくりを先導
- ・北海道開発を推進するためには、国、地方公共団体、住民、NPO、企業、教育機関等のあらゆる主体がデジタル技術を活用して連携・協働

我が国を取り巻く状況

- ・人口減少・少子高齢化と人口動態の変化
- ・気候変動と自然災害の激甚化・頻発化
- ・社会を変えるデジタル技術
- ・国際情勢の変化

北海道の資源・特性

広大な大地

日本の国土面積の約5分の1

食料供給力

小麦、生乳等の農畜産物、ホタテガイ、サケ等の水産物で全国一の生産量

エネルギー・資源

風力、太陽光等の再エネや水資源が豊富に賦存、CO2吸収源の森林、ブルーカーボン生態系

自然環境・文化

知床や釧路湿原等の雄大な自然・景観、アイヌ文化、縄文遺跡群

地理的特性・寒冷地技術

北米・欧州と東アジアの結節点、積雪寒冷環境に対応した技術

2050年の北海道の将来像

果たすべき役割

- ①地方創生を先導
- ②我が国の食料安全保障を支える
- ③脱炭素化を先導
- ④自然環境・文化を受け継ぐ
- ⑤生産空間を守る強靱な国土づくり
- ⑥競争力ある産業の育成

将来像

- ①食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- ②デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。

計画推進の基本方針

計画の期間～2024年度からおおむね10年間

- ・リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成
- ・計画の実効性を高めるための方策
 - ・官民の垣根を越えた「共創」
 - ・社会変革の鍵となるDX・GXの推進
 - ・フロンティア精神の再発揮
 - ・戦略的・計画的な社会資本整備
- ・計画のマネジメント

計画の主要施策

目標1「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」

- 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
- 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
- 地球温暖化を先導するゼロカーボン北海道の実現
- 地域の強みを活かした成長産業の形成
- 自然共生社会・循環型社会の形成
- 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
- アイヌ文化の振興等

目標2「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

- デジタルの活用による生産空間の維持・発展
- 多様で豊かな地域社会の形成
- 北海道型地域構造を支え世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
- 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

第9期北海道総合開発計画（案） 構成

前文 第9期北海道総合開発計画の策定に当たって

第1章 計画策定の意義

第1節 北海道開発の経緯

1. 北海道開発の歴史
2. 第8期北海道総合開発計画の経緯

第2節 第9期北海道総合開発計画の意義

第2章 計画の目標

第1節 我が国を取り巻く状況

1. 人口減少・少子高齢化と人口動態の変化
2. 気候変動と自然災害の激甚化・頻発化
3. 社会を変えるデジタル技術
4. 国際情勢の変化

第2節 北海道の資源・特性

1. 広大な大地
2. 食料供給力
3. エネルギー・資源
4. 自然環境・文化
5. 地理的特性・寒冷地技術

第3節 2050年の北海道の将来像

1. 国の課題解決のために果たすべき役割
2. 将来像
3. 将来像を支える社会基盤
4. 将来像を実現するために進むべき方向性

第4節 第9期北海道総合開発計画の目標

- 目標1 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」
- 目標2 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

第3章 計画推進の基本方針

第1節 計画の期間

この計画の期間は、2024年度からおおむね10年間とする

第2節 計画の主要施策

第3節 計画の進め方

1. リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成
2. 計画の実効性を高めるための方策
 - (1) 官民の垣根を越えた「共創」
 - (2) 社会変革の鍵となるDX・GXの推進
 - (3) フロンティア精神の再発揮
 - (4) 戦略的・計画的な社会資本整備
3. 計画のマネジメント

第4章 計画の主要施策

第1節 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」に係る主要施策

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
4. 地域の強みを活かした成長産業の形成
5. 自然共生社会・循環型社会の形成
6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
7. アイヌ文化の振興等

第2節 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」に係る主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり